

黒川能の里王祇会館 - 館内説明看板(黒川能概要)

能は、今日の演劇の最も古い主要な形式です。黒川の春日神社に所属する何世代にもわたるメンバーは、500年以上にわたってこの芸術形式である黒川能の保存に取り組んできました。

黒川能は、現在の五流派にも似ていますが、独自の伝統があります。黒川能の演舞は、日本の舞台芸術の他の伝統からほとんど消えてしまった神道に関連する独特の儀式的側面を保持しています。

能がいつ黒川に到着したのかは不明です。しかし、江戸時代の初め（1603年から1867年）には太夫（座長）の記録があります。他の証拠は、室町時代（1336-1573）の終わりにその芸術形態が存在したことを示しています。

現在は国の重要文化財として指定されている、室町時代の能衣装が3つ現存しています。

黒川能自体は1976年に重要無形民俗文化財に指定されました。

春日神社のメンバーは、上座と下座の2つのグループに分かれています。それらは一緒になり、主にグループの会長によって管理されている能座のグループを構成します。大人から子供まで約150人のパフォーマーが、約250の伝統的な能面と500以上の衣装を使って540の能と50の狂言を大規模に演じます。

能の公演や式典は一年中行われます。以下がそれらのものです：

春日神社王祇祭（2月1日～2日）

春日神社祈年祭（3月23日）

春日神社例大祭（5月3日）

羽黒山花祭り（7月15日）

春日神社新嘗祭（11月23日）